

**第 2 四半期 決算説明資料
(2 0 2 0 年度)**

2 0 2 0 年 1 2 月 1 0 日



2020年度 第2四半期 決算概要

2020年度 第2四半期累計期間の総括

- 当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大に見舞われる中、感染症対策と経済活動立て直しの両立に向けた対策が講じられる等、国内景気は不透明感漂う中でのわずかな回復傾向となりました。
- このような事業環境の中、呼吸用保護具を中心に労働安全衛生保護具を供給している当社は、新型コロナウイルス感染症対策として防じんマスク・保護衣等の受注は急増した第1四半期に続いてその後も堅調に推移したこと、また主要顧客である製造業からの受注も景気後退の影響を大きく受けることもなかったことから、売上高は前年同四半期比15.5%増の58億15百万円となりました。
- また、利益面でも、製品売上高の大幅な増加の影響により製品原価は増加したものの、製品原価率の改善で売上総利益は前年同四半期比29.0%増の19億37百万円となりました。
- 販売費及び一般管理費は、売上高増加に伴い運送費等が増加した一方、従来の営業活動方法を見直したことによる諸経費削減が奏功して、全体としては前年同四半期比1.3%減の15億22百万円となりました。
- 以上の結果、営業利益は、4億14百万円（前年同四半期は営業損失39百万円）、経常利益は、4億31百万円（前年同四半期は経常損失30百万円）、四半期純利益は、2億96百万円（前年同四半期は四半期純損失32百万円）の増収増益決算となりました。

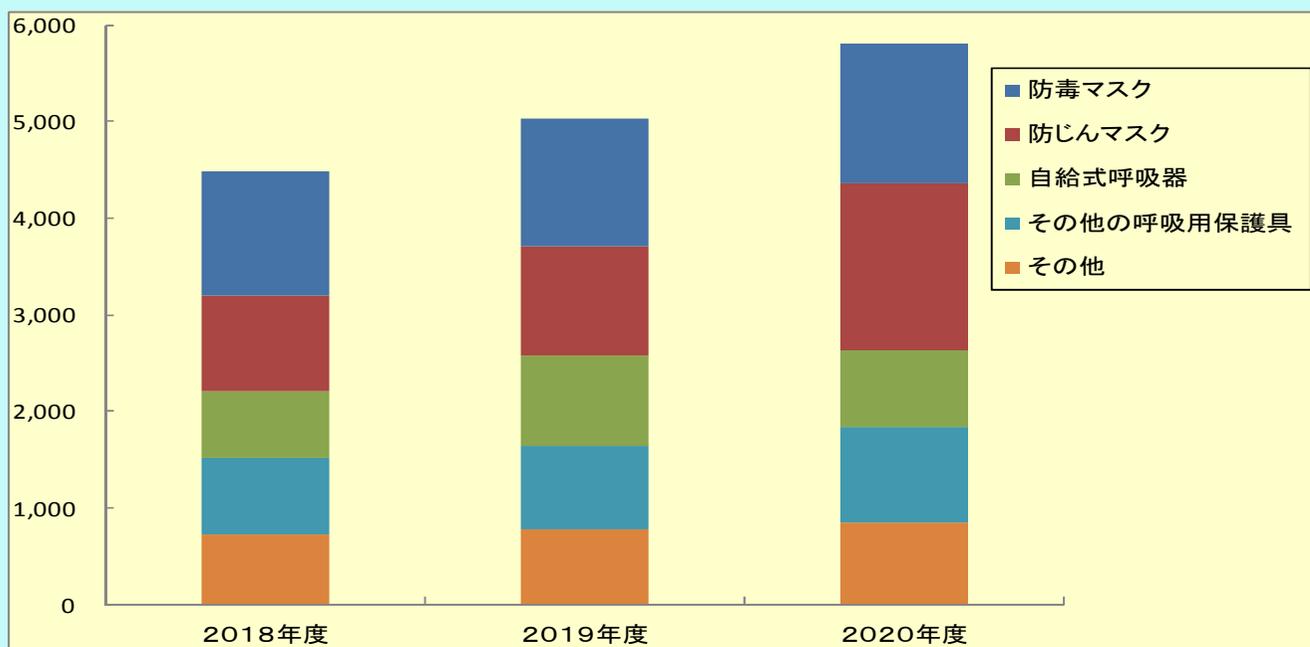
2020年度 第2四半期累計期間の損益状況

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	19年度第2四半期	20年度第2四半期	前年同期間比増減	備 考
売 上 高	5,036.6	5,816.0	779.4	新型コロナウイルス感染症対策保護具の受注が期初から好調に推移したことから、売上高は前年同期間比で7億79百万円の大幅増収となりました。
製品製造原価	2,405.0	2,776.4	371.5	前年同期間比で、製品製造原価が3億71百万円増加、商品原価が27百万円減少し、売上原価全体では3億44百万円増加したものの、売上高の増収額が大きいことから、売上総利益は4億34百万円増加の19億37百万円となりました。
商品原価	1,129.4	1,102.4	△ 27.0	
売上原価	3,534.4	3,878.9	344.5	
売上総利益	1,502.2	1,937.1	434.9	
販売費及び一般管理費	1,542.0	1,522.5	△ 19.5	販売費及び一般管理費は、従来の営業活動方法の見直しにより前年同期間比で19百万円減少して、営業利益が4億54百万円の大幅増益となりました。
営業利益	△ 39.9	414.6	454.4	営業外収益が受取ロイヤルティの増加等から11百万円増加し、全体でも7百万円増加した結果、経常利益も前年同期間比で4億62百万円の大幅増益となりました。
営業外収益	33.5	45.2	11.7	
営業外費用	24.6	28.5	3.8	
経常利益	△ 30.9	431.4	462.3	
特別損失	9.1	1.8	△ 7.3	今期は製造機械等の固定資産除却損が少なく、特別損失の計上は前年同期間比で7百万円減少しました。
税引前四半期純利益	△ 40.0	429.5	469.6	法人税等調整額を含めた税負担後の四半期純利益は2億96百万円と、前年同期間比で3億28百万円の大幅改善となりました。
法人税、住民税及び事業税	2.9	150.5	147.6	
法人税等調整額	△ 10.3	△ 17.1	△ 6.9	
四半期純利益	△ 32.7	296.2	328.8	

第2四半期累計期間のセグメント別売上高推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

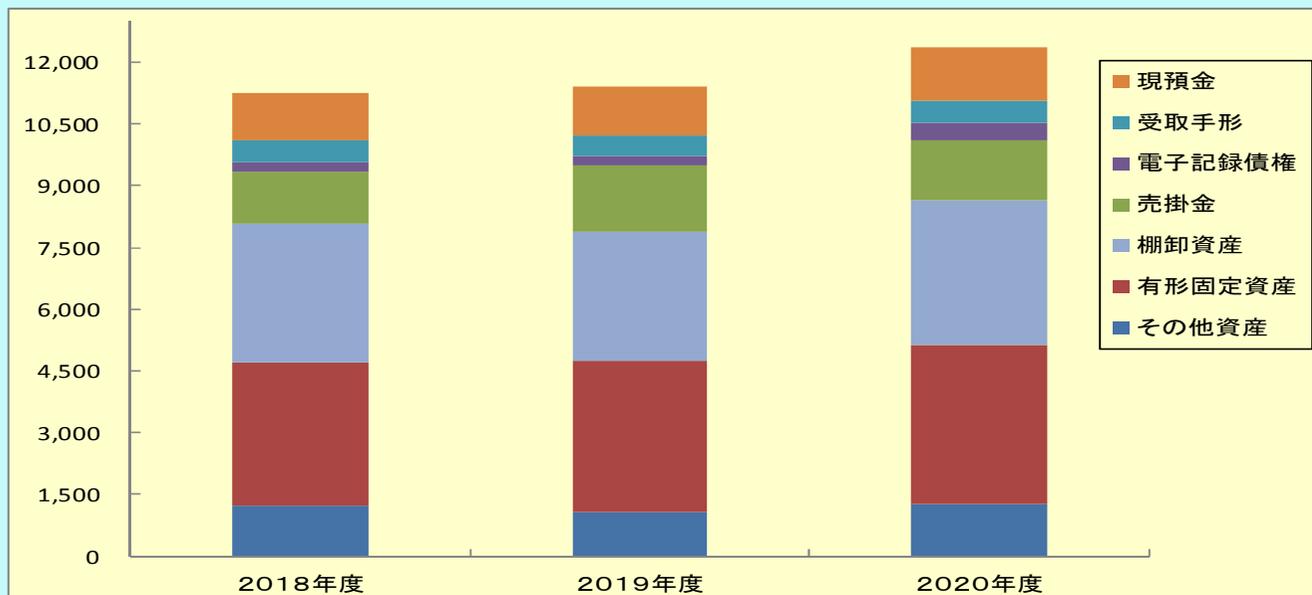
	2018年度	2019年度	2020年度
防毒マスク	1,302.0	1,330.5	1,453.8
防じんマスク	978.5	1,126.6	1,730.1
自給式呼吸器	687.1	939.5	785.5
その他の呼吸用保護具	801.9	863.3	998.2
その他	721.8	776.7	848.4
合計	4,491.3	5,036.6	5,816.0

当第2四半期累計期間の特徴

- ① 期初より新型コロナウイルス感染症対策として、防じんマスク・保護衣等の受注が前年を上回る水準で堅調に推移したことから、当第2四半期累計期間の売上高は、前年同期比で7億79百万円の増加となりました。
- ② 前年同期比で、防毒マスクは1億23百万円の増加、防じんマスクが6億3百万円の増加となりました。また、電動ファン付き呼吸用保護具の受注を中心に、その他の呼吸用保護具は前年同期比で1億34百万円増加しました。その他の売上増加は保護衣等の受注が伸びたためであります。
- ③ 自給式呼吸器は、前年度に消費税率引き上げに伴う駆け込み需要があったため、前年同期比で1億53百万円の減少となっております。

第2四半期末の主要資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2018年度	2019年度	2020年度
現預金	1,126.8	1,177.6	1,294.0
受取手形	520.8	484.6	528.8
電子記録債権	259.1	264.5	441.8
売掛金	1,258.5	1,600.9	1,443.8
棚卸資産	3,339.6	3,116.3	3,517.7
有形固定資産	3,493.2	3,665.5	3,865.6
その他資産	1,229.9	1,087.5	1,264.2
合計	11,227.9	11,396.9	12,355.8

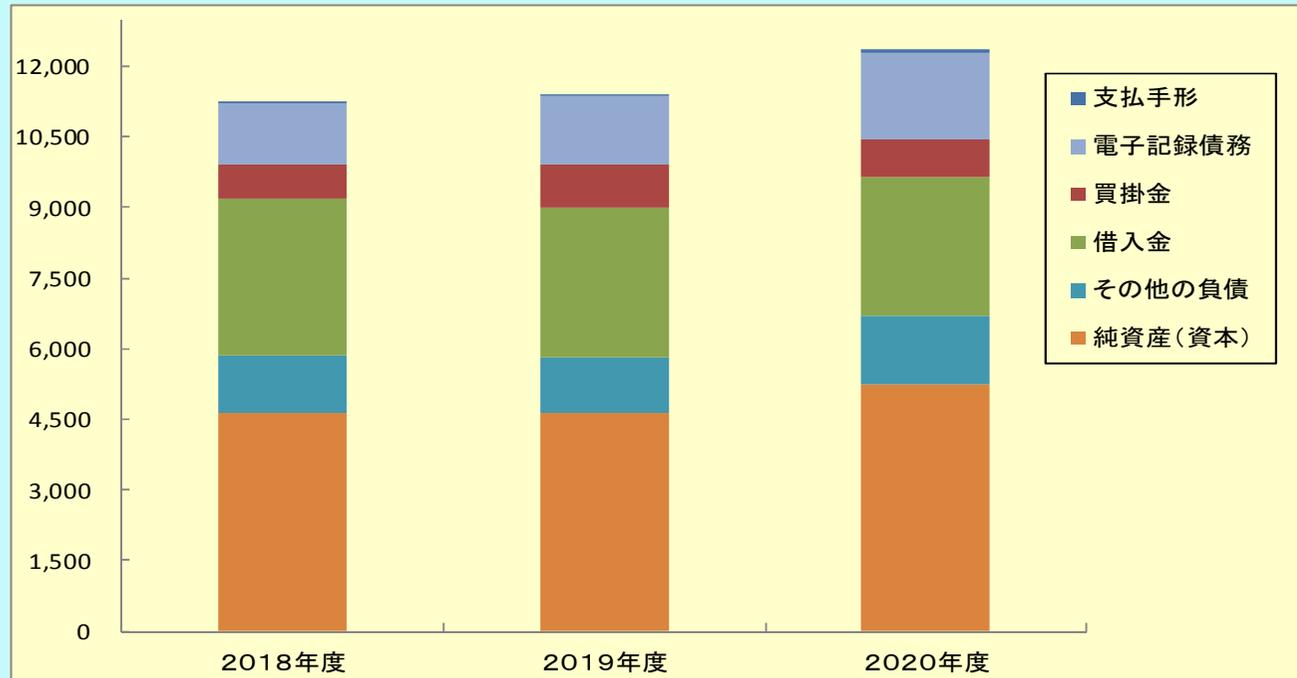
注： 本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は簿外のため含まれていません。

当第2四半期末の特徴

- ① 現預金の残高は、前第2四半期末比では1億16百万円増加していますが、これは通常の変動範囲内にあるものです。
- ② 売上高の増加を受け、売上債権（受取手形＋電子記録債権＋売掛金）は、前第2四半期末比で64百万円の増加となりました。
- ③ 棚卸資産は、堅調に推移する受注増を見込んだ在庫計画のため、前第2四半期末比4億1百万円の増加となっております。
- ④ 製造ラインの増設やそれに伴う工場建物の整備などの設備投資により、有形固定資産は、前第2四半期末比で2億円の増加となっております。
- ⑤ 保有株式の株価上昇を受け、投資有価証券が前第2四半期末比で1億48百万円増加したことを受け、その他資産全体は、1億76百万円の増加となりました。

第2四半期末の主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

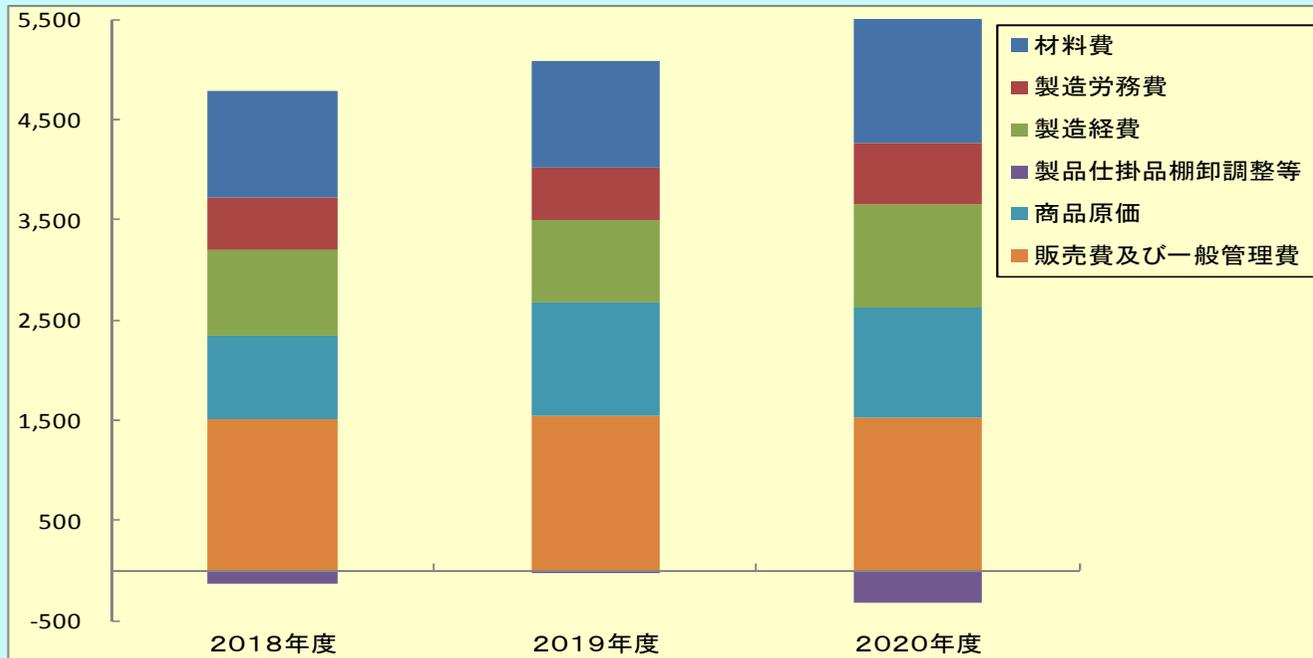
	2018年度	2019年度	2020年度
支払手形	33.1	48.4	72.8
電子記録債務	1,298.0	1,431.1	1,832.7
買掛金	711.4	915.0	827.7
借入金	3,320.0	3,185.0	2,930.0
その他の負債	1,228.2	1,193.9	1,442.3
純資産(資本)	4,637.2	4,623.5	5,250.2
合計	11,227.9	11,396.9	12,355.8

当第2四半期末の特徴

- ① 製品売上の大幅増加に伴う仕入高の増加に伴い、支払債務（支払手形＋電子記録債務＋買掛金）は、前第2四半期末比で3億38百万円の増加となっております。
- ② 売上高の増加に伴い、借入金残高合計は、前第2四半期末比では2億55百万円減少しています。
- ③ 負債合計は2億48百万円増加、純資産は6億26百万円増加した結果、当第2四半期末の自己資本比率は42.5%となり、前第2四半期末比では1.9ポイント向上しました。

第2四半期累計期間の売上原価・販売管理費状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2018年度	2019年度	2020年度
材料費	1,067.6	1,051.2	1,465.3
製造労務費	518.9	528.0	615.6
製造経費	858.7	826.4	1,021.3
製品仕掛品棚卸調整等	△ 123.2	△ 0.5	△ 325.7
商品原価	844.7	1,129.4	1,102.4
販売費及び一般管理費	1,505.7	1,542.0	1,522.5
合計	4,672.4	5,076.4	5,401.4

当第2四半期累計期間の特徴

① 製品売上高増加に伴う生産増で、材料費は前年同期間比で、4億14百万円増加しています。

製造労務費は、急増した受注への対応でフル生産を続けた結果、前年同期間比では87百万円の増加となっています。

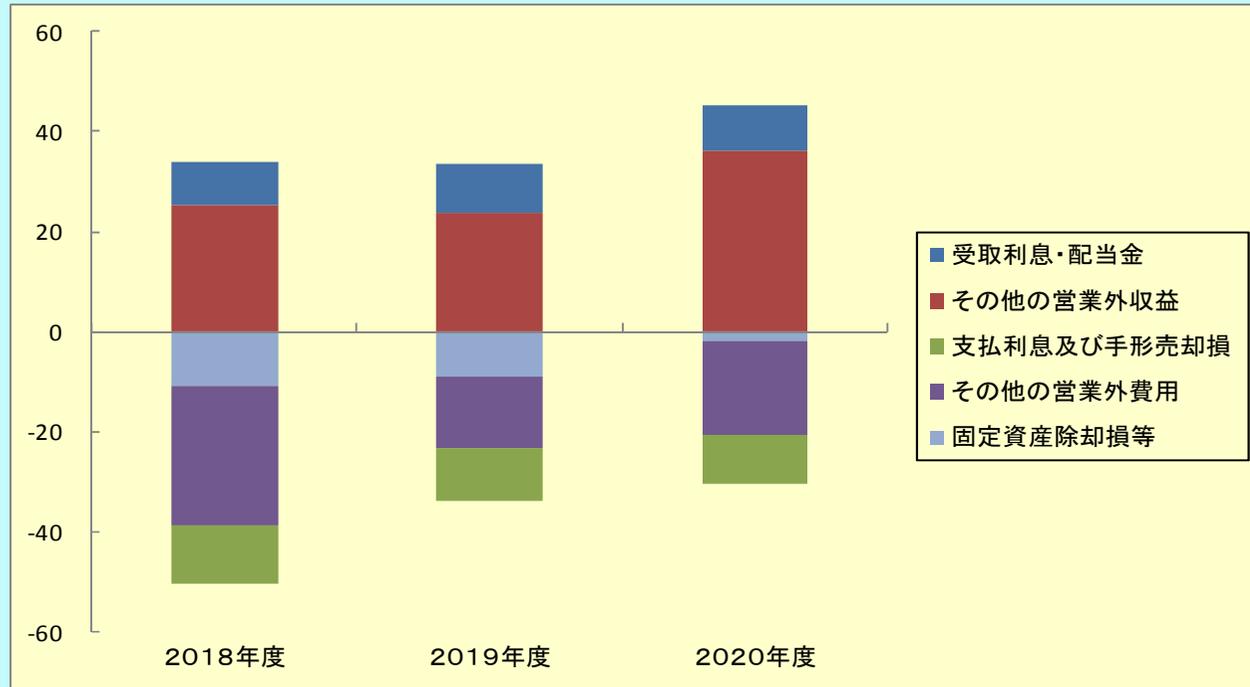
製造経費は、生産増に伴い、前年同期間比で1億94百万円増加しましたが、大幅な製品売上高の増加もあり、売上高に占める比率は23.6%と、ほぼ前年同期間並みの水準を維持しております。

② 商品原価率は、前年同期間比1.3ポイント上昇しましたが、これは前年度の消費税率引き上げに伴う自給式呼吸器の駆け込み需要の影響による一時的なものです。

③ 販売費及び一般管理費については、売上増加に伴い運送費等が増加した一方、従来の営業活動方法を見直したことによる諸経費削減が奏功して、前年同期間比では19百万円の減少となりました。

第2四半期累計期間の営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



当第2四半期累計期間の特徴

- ① 営業外収益は、前年同期間比で、受取ロイヤルティが6百万円、為替差益が4百万円増加等の変動がありました。
- ② 営業外費用は、売上高増加に伴い、売上割引が前年同期間比で5百万円の増加となりましたが、全体では3百万円の増加で前年度並みとなりました。
- ③ 特別利益に計上すべきものは前年同期間と同様にありません。
- ④ 特別損失は、機械等の固定資産除却損を1百万円計上しています。

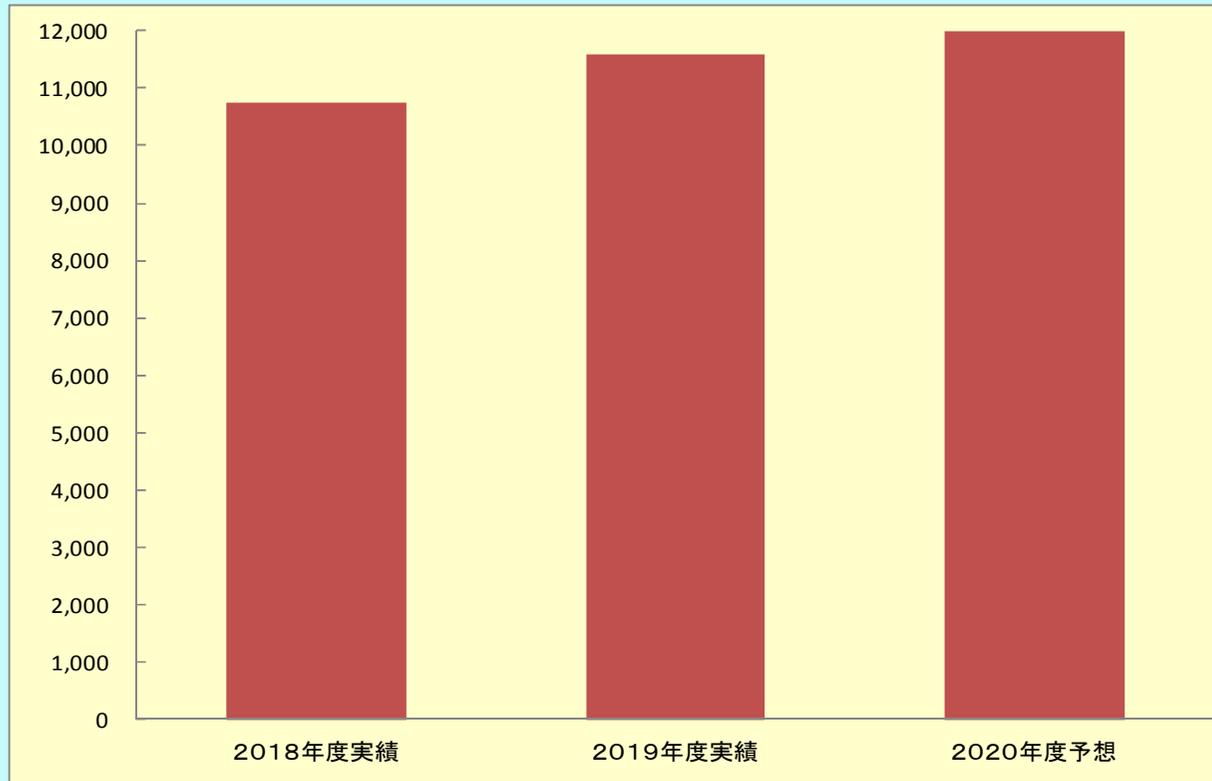
単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2018年度	2019年度	2020年度	
営業外損益	受取利息・配当金	8.6	9.6	8.8
	その他の営業外収益	25.2	23.9	36.4
	支払利息及び手形売却損	△ 11.7	△ 10.5	△ 9.5
	その他の営業外費用	△ 27.9	△ 14.1	△ 19.0
	営業外損益合計	△ 5.7	8.9	16.8
特別損益	固定資産除却損等	△ 10.9	△ 9.1	△ 1.8
	特別損益合計	△ 10.9	△ 9.1	△ 1.8

2020年度通期業績予想

2020年度通期の売上高予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点未満四捨五入

	2018年度実績	2019年度実績	2020年度予想
通 期	10,748	11,597	12,000

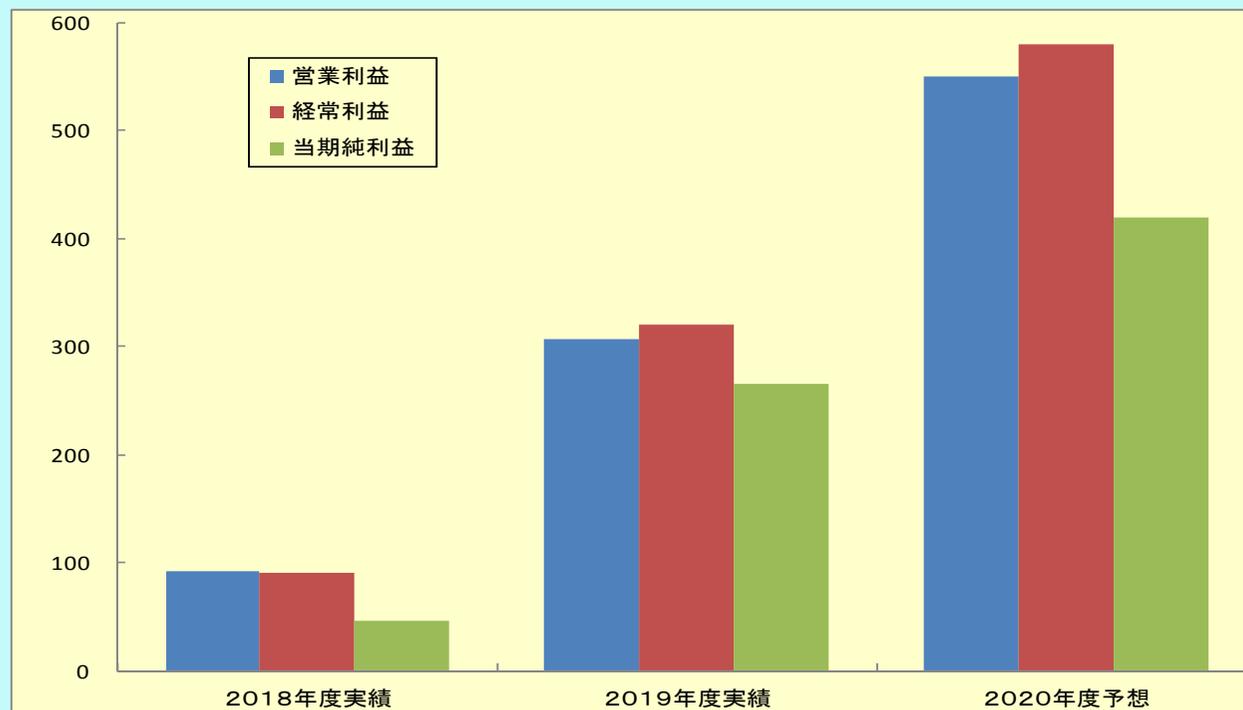
状 況 と 見 通 し

当第2四半期累計期間の売上高は、新型コロナウイルス感染症対策として、防じんマスク・保護衣等の受注は急増した第1四半期に続いてその後も堅調に推移したこと、また主要顧客である製造業からの受注も景気後退の影響を大きく受けることも無かったことから、売上高は前年同四半期比15.5%増の58億15百万円となりました。

通期の売上高予想値につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大による感染症対策用保護具の受注は、第3四半期に入ってもなお好調を維持しております。加えて、感染拡大第3波が騒がれるなど、感染症対策用保護具の需要は、今後も高い水準で推移すると見込まれます。一方、主要顧客である製造業の受注動向は不透明ではあるものの、受注の落ち込み幅は想定よりも小さくなると思われ120億円を見込んでおります。

2020年度通期の利益予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2018年度実績	2019年度実績	2020年度予想
営業利益	92.5	307.4	550.0
経常利益	90.9	320.1	580.0
当期純利益	46.8	265.9	420.0

状況と見通し

当第2四半期累計期間の利益面については、本年8月に修正開示したとおり、営業利益以下の各利益実績いずれも、本年5月に公表した当初の利益予想値を大きく上回っております。通期の利益予想値につきましても、売上高の増加に伴い前回予想を上回る見込みであるため、営業利益5億50百万円、経常利益5億80百万円、当期純利益4億20百万円に12月10日付けで修正開示いたしました。

今後、上記の見通しに変化があると予想された場合には、適時開示規則に則り、速やかに業績予想の修正発表を行ってまいります。